

はじめに



日本には古くから「察する文化」があります。「こうしてほしい」ということをはっきりと言葉にはせず、あいまいな表現や表情で理解しあおうとする考え方です。とくに言いにくいことは、「言わなくてもわかってほしい」と思うこともありますよね。けれど今の時代、多様な考え方や意見があって、言葉で伝えなければわかりあえないことがたくさんあります。

自分の気持ちや考えを言葉にすることは、大人になったからといって急にできるようになるわけではありません。子どものころからくり返し、「練習」をすることで上手になります。

子どもには「自分の意見を表す権利」があります。それは、家族や友だちだけでなく、学校や先生に対しても同じです。自分の意見を伝えることは、悪いことではないし、わがままでもありません。ただ、意見をそのまま取り入れてもらえないこともあるでしょう。そういうときは、どう話しあいをするよいか考えることも大切です。少しめんどろだけけれど、上手に合意（おたがいの意見を一致させること）を作っていくことは、大人になったとき、いちばんの生きる力となり、あなたを幸せにしてくれます。

東京大学名誉教授・監修
汐見稔幸

もくじ



はじめに …… 2

同意ってなんだろう？ …… 4

子どもの権利条約って知ってる？ …… 6

マンガ●女子と男子で先生のあつかいがちがうのはなぜ？ …… 8

「男だから」「女だから」って、区別されたことある？ …… 10

- ジェンダー平等×同意 …… 11
- ジェンダー平等の新しい取り組み …… 12
- あなたは どう思う？ …… 13

マンガ●校則はだれのためのもの？ …… 14

校則について疑問に思ったことある？ …… 16

- 校則×同意 …… 17
- 校則に疑問を感じたら ……？ …… 18
- あなたは どう思う？ …… 19

マンガ●先輩がこわくて何も言えない …… 20

部活動でイヤな思いをしたことある？ …… 22

- 部活動×同意 …… 23

マンガ●コーチの言うことは絶対？ …… 24

習い事やお稽古、塾のことで悩んだことある？ …… 26

- 習い事×同意 …… 27
- あなたは どう思う？ …… 28

子どものための相談窓口 …… 30

さくいん …… 31



校則はだれのためのもの？



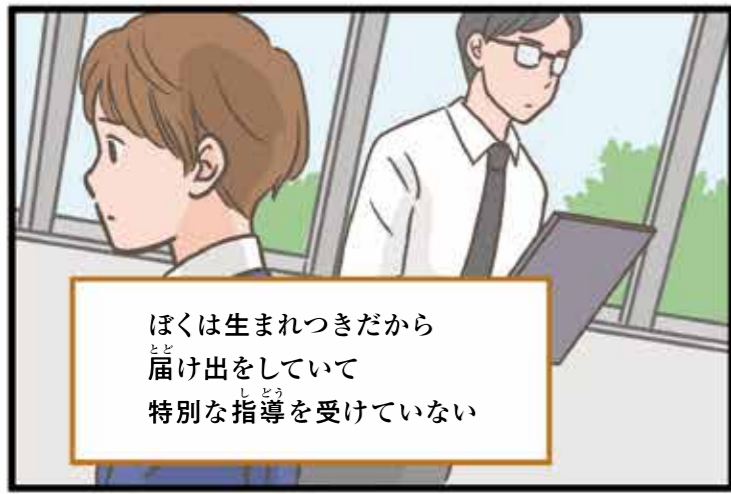
ほくは生まれつき髪が茶色でくせ毛



通学する中学校は

スカート短くないかー

少しでも染めるときびしく生活指導を受けるけど



ほくは生まれつきだから届け出をしていて特別な指導を受けていない



とはいえ目立つ髪のせいだまにイヤな目にあう…

オレも髪の毛染めたいな～



ショウは髪が茶色でも注意されなくていいよな

ズルいよなあ



なにあれ…ひどくない？気にしなくていいよ！

校則がなければあんなこと言われなくてすむのになあ



でもほんと校則ってきびしいよね…

ひざ下 〇〇cm

校章入り



靴下はワンポイントも認められない…



ヘアゴムは黒以外禁止！

私もイヤになるよ…

なんのために、校則ってあるんだろう？



あなたは どう思う？

「怒ってはいけない」 小学生バレーボール大会

元バレーボール日本代表の益子直美さんが2014年から開催している「益子直美カップ小学生バレーボール大会」には、「怒ってはいけない」というルールがあります。勝利にこだわるあまりつい熱くなり、言葉がきつくなった監督がいれば益子さんが直接注意し、どなりすぎたときは赤で×(ベケ)と書かれたマスクをつけさせられます。益子さんは、選手時代に暴力による指導を受け、現役引退後も自信がもてずに悩み続けたそうです。子どもたちに自分のような思いをしてほしくないと考え、実現した大会です。

優勝を目標にしてきた人たちにとっては、全国大会がないのはさみしい気がする。

2022年から、全国小学生 学年別柔道大会を廃止

試合に勝つ(相手に勝つ)ことがいちばんの目標とされる考え方「勝利至上主義」によって、練習量が増え、指導もきびしくなりすぎていることなどが理由で廃止されました。これからは、小学生が参加することを目標にできるようなイベントの開催を考えています。

全国ミニバスケットボール大会 優勝チームは決めない

2018年から優勝チームを決めず、出場全チームが3試合ずつを行う交歓大会になりました。ベンチ入りした子どもたち全員が出られるようにするルールも設けられました。大会では、指導者も選手も勝利にこだわらず、試合に参加することを大切にしています。

勝つことばかり考えていると、スポーツを楽しめなくなるよね。スポーツはラテン語で、「楽しむ」っていう意味もあるんだって!

スポーツの世界では、子どもの権利を尊重し、勝利にこだわりすぎない新しい取り組みが広がっています。一步先に行く海外の話題も紹介します。

サッカー強豪国のスペイン 18歳以下までの全国大会はない

スペインのクラブチームの多くでは、技術を高めることより人として成長させることを大切にしています。クラブを出たあとの人生をいちばん優先して考えているからです。18歳以下までの大会を廃止する前と後では、プロ選手になる割合は変わっていないようです。

日本は全国大会が多いよね。競うことでより強くなれると思っていた。

勝ちたいなら、どんなことがまんしなきゃいけないと思いついてたけれど、そうではないとわかって安心した。

ラグビーを楽しむことを 大切にするイングランド

イギリスでも、特に人気の高いスポーツは勝利至上主義が問題になっています。そんな状況を変えようと、イングランドラグビー協会は15歳以下まではリーグ戦(競技大会)を行わず、13歳以下までは全選手を試合に出場させ、試合でも公式記録をつけません。順位もトロフィーもなく、その代わり、参加者全員にメダルを配ります。子ども中心のクラブチームも増えていて、練習ではラグビーを楽しむことや友だちとの関係づくりを大切にしているそうです。そんなクラブからも、プロ選手が誕生しています。

勝利至上主義は悪いこと?

「勝利を追い求めること」は目標であり、それ自体は悪いことではありません。ただ、その目標を達成するために、コーチ(先生)や保護者が熱くなりすぎて、どなる、なぐる、無理な減量を強いるなど、子どもの権利を無視した手段をとることが悪いのです。

